

事業創出 アイデア報告

松山 企業提示の課題 学生挑む



「止まらない船の実現」を目指す取り組みの成果を発表する弓削商船高専のメンバー
＝1日午後、松山市一番町3丁目

四国ゆかりの若者と県内企業の協力で新規事業創出を目指すプログラム「LEADING EDGE 4国」の最終報告会が1日、松山市一番町3丁目の松山三越であった。愛媛大の学生ら6組のグループ・個人が、企業の提示したテーマを実現しようと試行錯誤した成果を報告した。

弓削商船高等専門学校を可視化する仕組みづくり

（上島町）の5人は、BE MAC（今治市）が提示したテーマ「決して止まらない船を実現する」に対し「MRデバイスとスターステックを活用した航行支援システム」の構築を目指した。船外の監視カメラを使って船舶の全周囲を可視化するプログラムの表現や、航路データと位置情報を生かし航路を可視化する仕組みづくり

という2本柱で、ともに一定の成果はあったが実装には至らなかった。

新居浜高専の4人は四国電力の課題に対し、新居浜太鼓祭りでは太鼓台の位置情報を確認できるアプリの開発を提案した。太鼓台にWiFi（ワイファイ）を取り付け、電柱などを使って市内に独自ネットワークを構築することで精度の高い位置情報の提供が可能になり、祭り期間の交通渋滞解消につながるとした。

プログラムはIT分野などに優れた地方の若い人材を発掘・育成する経済産業省の補助事業で、伊予銀行（松山市）などが主催。8月の選考会で選ばれた6組が企業の提示した課題に取り組んでいた。伊予銀の木原光一常務は「若い人たちが半年間課題に挑んだことが成果。今後もこんな交流を増やしたい」と話した。

（宇和上翼）